

**「第2回近畿圏広域地方計画協議会」及び
「関西広域機構と近畿広域戦略会議との合同会議」の合同会議**

1. 開催日時:平成 21 年 6 月 10 日(水) 13:00～15:00

2. 場 所:リーガロイヤルホテル大阪 桐の間

3. 出席者:別紙参照

4. 議事要旨

(事務局)

- ・ 「近畿圏広域地方計画協議会」、「関西広域機構と近畿広域戦略会議の合同会議」を開催させて頂く。
- ・ 最初に本日の会議の開催の趣旨を説明させて頂く。
- ・ 参考資料 1 の裏に「広域地方計画」と「地方重点方針」の関係が書いてあり、表の中ほどに「計画の対象」の欄がある。広域地方計画は「国土の利用、整備及び保全に関する府省にまたがる施策」ということで、環境問題、産業政策問題、医療福祉問題、社会資本問題と、広い分野に渡った近畿圏の将来ビジョンを作っていくということである。
- ・ 右側「地方重点方針」は社会資本整備の分野につき広域地方計画を受け、5 年間の計画を作ることである。かたや概ね 10 年先、かたや 5 年間ということで計画の対象及び期間に大きな違いがある。
- ・ ただ広域地方計画を踏まえ重点方針を作るという意味合いにおいて密接に関連しているため、本日合同会議を開催させて頂いている。
- ・ なお両会議のメンバーもほぼ同じ方に委員になって頂いており、その意味でも 2 つの会議を同時開催した方が効果的ということで、合同開催とさせて頂いている。
- ・ 資料は多数あり、一つは今申し上げた広域計画の資料と、次に重点方針の資料、その下には大阪府、堺市、徳島県から提出頂いたパンフレット等の資料が添えてある。また一番下には本日の会議とは直接関係ないが、情報提供ということで「道路の中期計画（近畿地方版）（素案）」をお付けしている
- ・ 会議は公開という形で開催させて頂く。
- ・ 本日は国土交通省より技監の谷口、国土交通計画局長川本、大臣官房審議官内田、同じく廣瀬の 4 名が参加している。開会にあたり本来、国土交通大臣の挨拶を予定していたが公務で出席できなかったため、谷口技監より挨拶の代読をお願いする。

(国土交通大臣（代理：技監 谷口博昭）)

- ・ 国土交通省技監を務めている谷口である。本日は何かと御多忙のところにも関わらず、この合同会議にご出席頂きありがたい。感謝を述べる次第だ。それでは司会の方からあったように、金子大臣の挨拶を代読させて頂く。
- ・ 「本日、第2回近畿圏広域地方計画協議会及び関西広域機構と近畿広域戦略会議の合同会議が開催されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。ご出席の近畿地域の各府県、市町村、経済団体など関係の皆様には平素から国土交通行政の推進に各段のご支援、ご協力を賜っておりますことを、心から御礼申し上げます。また近畿圏の広域地方計画、並びに社会資本の重点整備方針の策定につきましても多大なるご尽力を頂いており、重ねて御礼を申し上げる次第であります。現在、日本経済は世界的な金融危機を契機とした厳しい経済・雇用状況に直面する中で、政府といたしましても、経済の底割れを回避し将来の成長力を高めるために、この度総額約 14.7 兆円の補正予算を成立させてところであります。今後その計画的、機動的執行を計り早期にその経済効果が発現されるように努めて参りたいと考えております。さてわが国の国土政策の基本指針となる国土形成計画は、昨年7月に全国計画が策定され、また本年3月には国土の基盤整備の方向性を示す社会資本整備重点計画が決定されたところであります。これらの計画を踏まえ、現在地域の自立的発展のための将来展望を示す広域地方計画及び地方の特性に応じた効率的・効果的な社会資本の重点整備方針の策定が進められております。近畿圏においては昨年12月に第1回の広域地方計画協議会が開催された後、多様な立場の方々からご意見をお聞きするなど、精力的に検討を進められて参りました。その中では近畿圏における将来像として、長い年月をかけて創造、継承してきた多様な歴史、文化資源を生かした文化首都圏の形成、先端学術研究開発拠点や、層の厚いものづくり技術産業の集積を生かした次世代産業技術産業の育成など、近畿圏が誇る知と文化を生かした地域づくりのあり方などが示されていると称しており、今後の近畿地域の整備の方向性が明らかにされてきたものと認識しております。国土交通省といたしましても、ご出席の皆様と共により具体的な地域の将来を展望した計画づくりに努力して参りますと共に、その実現に向けたハード、ソフト両面での推進を計っていく所存であります。最後に本日ご出席の皆様方のますますのご健勝と、近畿地方の一層の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。平成21年6月10日、国土交通大臣金子一義」代読。

(事務局)

- ・ 本日の会議の進行を、広域地方協議会の会長かつ関西広域機構会長である秋山様をお願いし、挨拶を頂きたい。

(協議会会長 (秋山喜久))

- 本日 2 つの合同会議を開催させて頂いたが、進行係を務めさせて頂く。本日は各知事様をはじめ、関係者の皆様には大変お忙しい中お集まり頂きありがとうございます。
- 広域協議会の方は本日が 2 回目の開催で、これで最終回ということになるので、広域計画策定の歴史を少し振り返ってみる。
- 皆さんご存知の通り 1950 年に国土総合計画法ができ、第 5 全総までを 1988 年までに策定された。これは全国の計画を作り各ブロックに展開するといういわば中央集権型の計画設定だった。しかしその後、地方分権の流れの中にあり、2005 年に国土形成計画を策定し、各地域で広域計画を作り、それを積み上げ国で全国計画を策定することとした。
- このような流れの中にあり、関西地域としては今技監の方から説明があったように、関西ならではの特徴を生かし、なおかつ全体として有機的な統一のとれた広域計画を策定しようと、協議会ならびに関係者の皆様方の協議を経た上で、先般市町村の意見も聞かせて頂き、本日 2 つの計画を策定させて頂いた。
- 本日の議論を踏まえ、その後、表にも書いてあるようにパブリックコメントを経て、最終計画として国土交通大臣へ提出させて頂く予定である。
- 本日はせっかくの会なので活発なご意見を頂きたい。
- それでは早速議事に入らして頂くが、2 つの計画は非常に関連深いので同時に説明させて頂き、その後ご議論を賜りたい。
- では、最初に近畿圏広域計画の方に関してご説明を事務局から願います。

(事務局)

- 資料 1、2、3 の説明。
- 資料 4、5、参考資料 2 の説明

(協議会会長 (秋山喜久))

- ただ今 2 つの計画についてご説明いたしましたが、近畿圏広域地方計画はこの協議会で原案を決定するものである。なおこれは将来像ないし地域戦略を折り込んだものである。
- 近畿ブロックの社会資本の重点方針は広域計画を受け、各省庁の局で構成される戦略会議で各界の意見を聞いて定めていくというものである。
- 従ってご意見を賜るにあたり、できればどちらの計画に対する意見なのか、あるいは共通の意見ということでも結構なので活発なご議論をお願いしたい。
- それでは隣にいらっしゃる滋賀県知事をお願いしたい。

(滋賀県知事 嘉田由紀子)

- ・ 大変包括的な計画で、5年後10年後を見据えた関西の姿を、夢を持って見せて頂きたい。
- ・ 少し補足的になるが、今我々が地球規模で考える際に、環境問題、特に温暖化対策を忘れることはできない。本日あたりに麻生首相が中期目標を出されることになると思う。
- ・ 申し上げたいことは2点あり、1つはこの温暖化対策などを含めて環境シフトは関西産業の強みを生かすという視点が重要ではないかということ。既に関西で書きこんで頂いているが、そこはぜひとも関西の元気回復のために意識的にお願いしたい。
- ・ 例えば太陽光発電、あるいは今の電気自動車の電池などの生産額を見ると、大阪湾を中心に兵庫、京都、滋賀まで含め生産額の約半分は関西が占めている。今後ますます伸びていくところだと思うので、そのあたりをぜひ強調して頂きたい。秋山会長もおられるし、経済会と環境成長経済でより関西を強くもっていけると思っている。
- ・ 2つめだが、関西の強みとして琵琶湖・淀川水系を生かしていく。既に「水と緑のネットワーク」というところで書いて頂いているが、これも改めてここで琵琶湖をお預かりする知事の立場として申し上げたい。
- ・ 今まではある意味で、琵琶湖の総合保全、富栄養化ということで30年踏ん張ってきたが、今新たな危機が訪れていることもお伝えしたい。
- ・ 温暖化の問題は遠い問題で、自分たちの目の前であまり関係ないと思いがちだが、残念ながら既に琵琶湖では温暖化の影響が現れ始めている。
- ・ 具体的に2年前の暖冬時、平均気温が1.5度上がったただけだが、琵琶湖は実は冬の間上層と下層、深いところでは104mあるがそれが混ざり全循環で深呼吸をする。このことにより1400万人の皆様に供給している水質が保たれている訳だが、この暖冬のたった1.5度上がっただけで琵琶湖の湖底に低酸素状態が現われてしまう。低酸素、無酸素になると湖底に沈んでいる有機物が一挙に噴き出し、琵琶湖のキャタストロフィーになってしまう。これを我々は最も恐れている。
- ・ そのような意味で近畿の琵琶湖・淀川水系の資源としての水、あるいはそこにいる生き物を守るためにも、この温暖化問題は遠い話ではないという情報を出させて頂きたい。
- ・ 先日も斎藤環境大臣にこのことをお伝えすると、「ああ分かりました。生物多様性の問題、例えば琵琶湖に何十万年と生きている固有種の多様性の問題と、温暖化問題は琵琶湖で繋がっているのですね」とおっしゃった。これは日本の国内でも大変珍しい場であり、分かりやすい例でもあり、世界の中緯度地帯の湖の運命的な問題だと思うので、ぜひこの近畿圏の計画の中でも温暖化対策、そして琵琶湖の再生を上流の琵琶湖をお預かりする知事としてもお願いをしたい。
- ・ 滋賀県では2030年に1990年比CO2半減という大変チャレンジングなテーマ、目的

を出しているが、このような流れは既に本日の資料 2 第 4 部 6 節 49 ページ以降では「CO2 削減と資源循環プロジェクト」にお書き頂いているが、この問題は遠い話ではない。目の前の正に今日も皆様の蛇口の水の向こうの琵琶湖に危機が迫っているということで温暖化対策を近畿圏全体の問題として真剣に取り組んで頂きたい。

- ・ これは最初に申し上げた通り近畿経済の再生、環境保全を埋め込んだ経済成長と表裏でいけるということを申し上げたい。

(大阪府知事 橋下徹)

- ・ 計画等は事務レベル等で精査されていると思うので子細なところまで私が申し上げることはしないが、意見としては近畿ブロック知事会など知事の集まり全てに該当するが、何でも作り上げたものを見せられ、どうするかと聞かれても何も言えない。できれば方向性だけでも近畿ブロック知事会や政令指定都市の市長が集まる会議で、例えば選挙で選ばれた我々が関西をどう思っているか程度の大きな方針は、先に国の機関と決めさせて頂きたい。その後は優秀な職員が中身を詰めるだろうが、我々が何を思っているか、どこに問題点を置いているかという連携もこれからは必要であり、そうでないと知事の意味がないと思っている。関西をどうするか程度の大きな話は我々も意見を出させてもらい、それに基づいて中身を詰めて頂くということが、今回はもう無理だと思うが、今後の会議体としてはお願いしたいところである。
- ・ 関西空港についてだが、どうもこの広域地方計画では近畿圏の中だけで、関西空港を捉えられているようなところがあり、日本の中で関西空港をどう捉えるかという視点がないと、この問題は私の就任以来 1 年 4 か月に渡り色々に行っているが、何も進まない。
- ・ これは近畿の問題ではなく、こういう時にこそ国土交通省に大きく日本の国から考えて頂きたい。今後どうするかという観点から財務省にも色々和政治的働きかけるにしても、大きく日本の視点から捉えて頂ければと思う。
- ・ 近畿ブロック知事会でまとめた「広域インフラグランドデザイン」をお手元の資料に配布している。これは知事が集り、インフラについて細かなことは外して総意でまとめたものだ。ありがたいことに今回の計画の中で、ほぼこれが反映されているのか、ほぼ一緒なので、我々がしたことに意味があるのかないか定かでないが、こちらの思っていることをきちんと反映して頂けると、府民の皆様にも県民の皆様にも説明できるのでありがたい。このような形で国の機関と地方の知事で連携をとっていききたいと思うので、よろしくお願いしたい。

(和歌山県知事 仁坂吉伸)

- ・ 広域地方計画と重点整備方針の両方について意見を申し上げる。
- ・ 広域地方計画では実は数回前だと思うが原案を拝見して、和歌山のような関西の端の

方から見ると、関西ないしは近畿圏を小さく捉えているので、もっと大きく捉えてほしいという話をしたと思う。

- 一例を挙げると「緑のヒンターランド」という言葉は実は最初の実案も現在も同じ名称だが中身は随分違ってきている。
- 始めは千里丘陵のようなところを緑のヒンターランドと捉えており、私もナチュラリストなので面白くないと申し上げた。それはやはり緑という点で考えると、比良山や阿州、紀伊半島の方がずっと面白いということ。関西の人が自然を全体として共有できる、良いところも皆で共有しようということを書いた方が良いのではないかと言ってきた結果、全体的にそのように考えて下さり大変評価している。
- これは一例だが、この計画はそうなっていると思うが、今後とも「大関西」で発想していくことを、国あるいは近畿地方整備局ないし出先の方々においても考えて頂きたい。
- 社会資本重点整備方針だが、先ほど橋下知事から大体「広域インフラグランドデザイン」と同じように書いて頂きありがたいという話があったが、別に悪くもないが、私はそれ程甘くない。
- 今回の重点整備方針においては、私の理解によるとこの5年間位の決まっていることに関してきちんと書いていこうとなっている。
- 例えば20年位先まで考え、5年経過したところでどこをどう採択していくかということについては、書けないことは書けないということで書いていないところが多々ある。
- 実は近畿圏全体の構想について昨秋、橋下知事から近畿ブロック知事会で提案があった。府県をまたがった瞬間に国に全部任せるということでは、我々の意味がない。関西は一つだということを目指すのであれば、自分たちも県の境を通り越して全体を構想できるようになるべきではないかということで、お手元の「広域インフラグランドデザイン」を橋下知事の大阪府が中心となり皆でまとめた。
- これはご覧のように、中身として随分先に我々としてお願いしたいということも入っている。今回のこの「近畿ブロックの社会資本の重点整備方針」については、5年間位で考えると「広域インフラグランドデザイン」と大体同じようになっているが、これは偶然の一致である。
- 別にプロセス的には我々の作業の方が遅かったので、広域インフラグランドデザインを見て頂いて、重点整備方針の内容を変更頂いた訳でないことはよく承知している。
- しかしながら、今後はどういう方向でどこをやっていくかということは、ぜひ近畿の皆さん方、またそれは本省にも繋がると期待して、我々ブロック知事会のグループと割合早期からお互い原案を基にし、首をつき合わせて考えていくとことをぜひ提案させて頂きたい。よろしくお願いします。

(近畿市長会会長 (宇治市長) 久保田勇)

- ・ 今回 2 つの計画素案をお示し頂き、非常に良くできた計画だと思っており、我々近畿市長会としては近畿圏の目指す将来像という 1 つのビジョンを持っている。
- ・ 今回の広域計画は、全国の各広域から比べてやはり近畿としての特徴を非常に強く打ち出して頂いた。この文化首都圏というのは非常にありがたく、ここまで良い構想を練って頂いたと思っている。
- ・ また各自治体、基礎自治体においてもそれぞれ意見を求めて頂いたが、少し気になるのは例えば今回の社会資本整備方針については約 70 の市町村から意見が提出されたのに対し、広域圏計画ではわずか 38 市町村からの提出に留まったということだ。今後スケジュール的にはパブリックコメントに進んでいく。この素案ができた段階で基礎的自治体に素案に対する意見を、パブリックコメントと並行してでも結構ですので、できましたら近畿の各市町村に参考意見としてお求め頂けるとありがたいと思っている。
- ・ 社会資本整備方針については、事務局では主要事業はあくまで例示ということだが、各自治体にとってはここに名称が載っているか載っていないかは死活問題のようなとり方をする場合がある。そのことからいくと、例示的に書いて頂くのは結構だが、ならば掲載しているのは代表的な事例ということをもう少し明確に示して頂きたい。
- ・ 計画の中身を見ると、指標は間違いなく全体目標だということが分かるが、主要事業という書き方はこれが例示なのか、まさにこの事業そのものを示すものなのか、少し分かり辛い。それは主要事業の各項目の捉え方になるが、非常に大きな話からある地域だけの小さな話までであると、もちろんどれも大事だがあまりにもレベルの差があるものまで全て例示の中に入れるのではなく、特に小さな地域課題についてはあえて地区名まで入れる必要はないのではないかな。各地で星のようにある同じ事業まで地区名を例示すると、少し語弊が出るのではないかなと思う。
- ・ 今は近畿の立場で物を申し上げたが役得で宇治市の立場で一点だけお願いしたい。例示の中で 17 ページに自然災害への取り組みについて載っているが、その中で「河川改修事業」が載っており、淀川と瀬田川という書き方になっている。大阪府域と京都府域は淀川、滋賀県域では瀬田川という書き方になっているが、京都府域では宇治川なので、できれば淀川と瀬田川と宇治川でお願いしたい。細かいことに拘るが、それぐらい地元としては河川に対する強い思いを持っているので、ぜひよろしく願います。

(近畿ブロック府県町村会会長 (河合町長) 岡井康徳)

- ・ 数年間この会議に出席させて頂き、最後の最後に市町村の意見を聞いて頂いた。これは私が最初に意見を出させて頂いたことで、この会議に参加して町村は何を言って良いか分からない会議だという話の中から意見を出させて頂いた。最後に町村の意見も

まとめて頂いたが、まとめて頂いたことを今後の課題としてどう取り組んで頂けるのかということに、これから注目をしていきたい。

- ・ 当然小さな町村ほど県との相談事で決まり、ほとんど国の方々と相談での決定ということがなかったのが現状だ。しかしこれからは小さな町村も見据えた中で取り組みをお願いし、それぞれに町村に応じた対策を取り入れてもらいたいと考えている。
- ・ 本日最後の出席のため余計なことは言わずにおこうと思ったが、一言やはり町村の実情を隅々まで知って頂いた対策を講じて頂ければと意見させて頂いた。

((社) 関西経済同友会代表幹事 中野健二郎)

- ・ 私はいわゆる民間という立場でこの2つの計画を見させて頂いているが、参考資料2に書いてありますが、これ全体は全くアグリーであり、これをどう具現化するか。
- ・ 10年先、あるいは5年でということを書いてあるが、それぞれ相当時間のかかるものもあるので、プライオリティをどうするか、重点と書いてあるがどうしていくのか、プロセスをどうしていくかが今からの大きな課題である。
- ・ もちろんこういった国土の話なのでスパンはもう少し国、自治体の立場では長い訳だが、我々民間の立場で5年間という一定期間で特に何をすべきかということをも3点申し上げておく。
- ・ 1つは橋下知事もおっしゃったが、今の日本の中において近畿圏だけでもものを考える時代ではない。従って近畿外の国内あるいは東アジア、外からどうやって人とモノを移動していくのかということを考えておかないと、絶対発展はない。
- ・ 東京一極集中と言えるが、私も東京～大阪をこの13年間で2年ずつ往復してきたが、東京にいる時にはあまり感じず、関西にいる時にどうなっているのかと思うことを3点申し上げる。1点は歴史文化、観光のところの回遊性の問題。お客さんをどこから運んで来て、どのように皆でこのエリアを回ってもらおうかということをも早急に詰めてもらう。
- ・ 2点目は資料3の5ページだが「大阪湾ベイエリアの再生」となっているが、再生ということはある意味では失敗したということだ。従ってそれをそのように今それを生かすかということをも、本日は大阪市柏木副市長が出席しておられるが、府をはじめ兵庫県、和歌山県を含めどうしていくのかを考える必要がある。今あるものを活かしていかないとどうしようもないということだ。そこを府市を含めた関連都市で早急に進めていくべきではないか。
- ・ 3点目はやはり先ほどの広域計画資料3に「物流ネットワーク」と書いてあるが、物流ネットワークというのは人の動きのネットワークでもあるので、何も物流だけでなく交通のミッシングリンク、道路の物流計画、人の移動という意味では手段が道路ではトラックか乗用車かあるいはバスかということと同じであり、鉄道の場合はネットワークをどうするか。

- ・ 先日なんば新線ができた。これは 50 年以上前に計画されていたものがようやくできたが、たった 4km でも変化するということを実証した事例だと思う。そのあたりのフォローを物流ネットワークだけで考えるのか、あるいは人、モノという移動の中で考えていくのかそのあたりが少し気になった。
- ・ 民間の立場で何を言っているのかということも自治体の中であるかもしれないが、今このエリアを関西だけでもを考えていくだけでは人口減少高齢化の中では進んでいかないと考えているので、ぜひその工程表を考えて頂ければと思う。

((社) 関西経済連合会会長 (代理：奥田真弥))

- ・ 本日は下妻が欠席だが、昨日相談してきたので、いくつか意見を申し上げたい。
- ・ 始めにバランス良くまとめて頂き、我々も色々と要望を出させて頂いたが大変良い形で整理して頂けたと感謝する。
- ・ 特に前回下妻の方から「近畿」という言葉でなく「関西」という言葉をぜひ売り出したい、できるだけ関西という言葉を使ってほしいと申し上げた。本当はこの表題自体も変えて頂きたいがこれは法律で決まっているということなので仕方がないが、最大限関西という言葉の中に盛り込んで頂いた。これは本当にお礼を申し上げたい。
- ・ 2 つめに皆様方からも同じような意見が出ているが、計画期間が概ね 10 年であるが、こういう社会資本整備絡みの話は、10 年はある意味ものすごく短い期間なのであつという間に過ぎてしまう。関西経済連合会も今回 2020 年を目指したビジョンというものを作ったが、そのビジョンを実現していく過程で短期、中期、長期という一種のメリハリをつけた計画性をきちんと持とうということで、チェックシステムなども関西経済連合会の中でも設けて取り組んでいるので、ぜひモニタリングの指標などをしっかり作って頂きたい。中身を見て頂くと短期、中期、長期でできるものと色々と混在しているので時間軸を意識して進捗管理をできるだけ進めて頂けるとありがたい。
- ・ 3 つめだが、これは先ほど嘉田知事からもお話があったように環境問題は大変重要で、関西経済連合会も「環境先進地域関西」という切り口で環境技術を通じ関西の産業を更に興していこうとトライしている。そういう意味で環境問題は大変重要だと思っており、この CO2 排出削減なども真剣に取り組んでいきたいと思っている。
- ・ この計画の中にも、色々目標値が書いてあるが、この目標はもちろん野心的でなおかつ実現可能な目標という意味だと思っており、2020 年つまり 10 年後の目標感を実現可能な形で共有し取り組んでいくことも重要だと考えている。その点もぜひこの場で確認させて頂ければありがたい。

(協議会会長 (秋山喜久))

- ・ どうもありがとうございました。これまでのところでご当局の方で何かコメントなり説明はあるか。

(事務局)

- ・ 大所高所からの多くのご意見を頂きありがたい。
- ・ 大所高所のおっしゃる通りで将来に向け、引き続きご指導を頂きたい。
- ・ 事務局から具体的に回答をできるところを 2、3 点申し上げると、市町村に計画素案が固まれば再度説明をという要望があったが、パブリックコメントの手続きがあるので、それとの兼ね合いも含めて少し検討させて頂きたい。
- ・ 次にモニタリングの話があったが、広域地方計画の最後にも書いてあるが、モニタリング指標を作りフォローアップしていくということは我々も考えており、この計画ができた後であれば幹事会等の場を生かしながら、具体的なモニタリング指標を検討し、フォローアップの仕方をより具体的に詰めていきたい。

(大阪府知事 橋下徹)

- ・ 仁坂知事からフォロー頂いたが、先ほどの広域インフラグランドデザインの話だが、少し厭味を込めて役に立ったのか役に立たなかったのかと言った続きだが、谷口技監にお願いするが、これは大阪府職員がまとめ役になり近畿一円の職員が昨秋から一生懸命努力し、自地域だけでなく利害等も調整しながらまとめたものがこのグランドデザインであり、こういった取り組みが今までなく初めてだったようだ。まだ不十分なところもあるかもしれないが、地方の職員も調整をできるだけの状態になっているので、ぜひ国土交通省の職員の皆様と仁坂知事のおっしゃるように我々が今、仁坂知事をはじめ近畿ブロックでは優先順位を決めるという話をしており、ぜひ優先順位や進捗状況管理等も含め、そこで国の意思と地方の意思が齟齬をきたさないように地方職員の取り組みと密な連携を取って頂ければと思う。地方職員は一生懸命頑張ってこれをまとめましたので、これが活きるようにお願いしたい。

(福井県知事 (代理：旭信昭))

- ・ 総合的な検討を賜りありがたい。発言が多少各論的になるが一言お願いします。
- ・ これまでも、例えば国全体の発展に資するような新幹線であったり高規格幹線道路という基幹的な社会資本については、限界もあるが、可能な限り具体的にそれをどのようにいつ頃やっていくかを書いて頂くことが地域にとって良いのではないかと、という発言をしてきた。
- ・ 今回特に資料 5 の方には具体的な取り組みが多く書かれており、これは感謝を申し上げたい。この中で一点だけ、ミッシングリンク解消の最たるものとしての北陸新幹線についてお願いしたいことがある。資料 2 の広域計画の中で、19 ページをみると「北陸新幹線については、整備新幹線に係る政府・与党申合せ等に基づき、着工区間の着実な整備を進めるとともに、それ以外の区間について所要の事業を進める」と、「それ以外の区間について」と書かれているが、近畿の計画として作っており、近畿の一

員としての福井から大阪までの内容が「それ以外の区間」と、どこへいっても通用するような他人事みたいな形になっているのがどうかと思う。

- ・ 資料3の主要プロジェクトの説明をみていくと、一度も新幹線という言葉が登場してこない。
- ・ ご存知の通り、新幹線は昨年12月の政府・与党WGの合意があり、これまでは東京から長野、金沢までの整備が書いてあったが、ようやく金沢から福井の間の工事の関係、敦賀駅部の整備が盛り込まれ、着工調整費も9億円ついている状況だ。
- ・ 北陸新幹線が大阪まで完成となると、大阪からの1時間到達圏が福井までで100万人入る。2時間圏でいくと500万人ということで、東京へ流れてしまうものをこちらへ引っ張れるという大きな意味合いがある事業だ。
- ・ 第1回の協議会においても、下妻会長からもその事を明確に書いてほしいという話があった。また、今ほども近畿ブロックの知事会の話も出たが、そこでも関西に必要なインフラとして新幹線が位置づけられているので、できれば「それ以外の区間」ではなく、関西と関係あるのは北陸新幹線しかないので、近畿としてさらに一步踏み込んだような表現ができないか。
- ・ 例えば、北陸新幹線について決まっているところは着実な整備を進めるとともに、「それ以外の整備区間である金沢から大阪間についても所要の事業を進める」というように、近畿、関西の位置づけをはっきり書いた方が良いと思うので検討をお願いしたい。

(協議会会長 (秋山喜久))

- ・ ありがとうございます。関西として北陸新幹線については非常に熱意を持って取り組んでいるが、敦賀から先をどうするかという問題が決まってないとなかなか迫力ある要望が出来ないが、この近畿ブロック会議でまとめられたインフラグランドデザインをみると、福知山周りの政府原案に近い線が書いてあるがこれはこのように決まっているとみていいのか、それとも絵だけか。

(福井県知事 (代理：旭信昭))

- ・ これは現段階ではとりあえずは福井、敦賀までとなっており、その先はまた皆さんで協議をしながらルートの検討をするという方向になっている。

(協議会会長 (秋山喜久))

- ・ 大阪からの要望によると、どこを通るのかと聞かれるので、これは福井県で検討頂いて指示を頂けると思っているのか。

(福井県知事 (代理：旭信昭))

- ・ これは福井までくるのに10年かかりますから、そういう20年も先のことを今ここで

決める必要があるのかということもあります。

(協議会会長 (秋山喜久))

- ・そこは決まっていないということで、ただ必要だという必要性だけ強調するということなので良いか。

(大阪府知事 橋下徹)

- ・今の福井県の意見と全く同じで、広域インフラグランドデザインは近畿の知事が府県をまたいで、福井、京都、奈良であろうが、ここに書いてあることは全部、積極的に政治的にも働きかけていくという意味を含めた広域インフラグランドデザインだ。今の福井県の主張はぜひ国土交通省には福井県の主張だけではなく、近畿一円の知事の意見であると受け止めて頂きたい。

(奈良県知事 (代理：奥田喜則))

- ・近畿圏広域地方計画についてはバランスをとって頂き、近畿ブロックの社会資本整備方針についても、本県の主要な取り組みを反映して頂いており感謝をしている。
- ・とりわけ国家的事業として採択頂いた平城遷都 1300 年祭についても、主要プロジェクトの 1 つとして取り上げて頂きこれも感謝を申し上げたい。
- ・そこで我々奈良県としては、1300 年祭を一過性のものとするのではなく、これを契機に関西全体の魅力向上に繋げていきたいと思っている。
- ・具体的には東アジア地方政府会合等の開催を契機に、東アジア各国との縁を活用した形での誘客を図っていくという取り組みも考えている。これは関西全体の誘客対策としても有効な取組であると思うので、「関西の魅力巡りプロジェクト」において位置付けて頂ければありがたい。
- ・それからリニア中央新幹線については、きちんとした戦略に位置付けられているが、更に東京都大阪市間の調査についても、基本計画を具体化する調査であるということも明記をして頂きたい。
- ・本県独自の取り組みで大変恐縮だが、奈良県では「奈良で暮らし奈良で働く」ということを大きな目標として取り上げている。住民の方々と行政が話し合いながらそれぞれの地域の実状に合ったまちづくりに取り組んでいる。
- ・例えば、遊休農地対策として単に農地を維持するということだけでなく、農地と企業立地のバランスが取れた土地利用が必要であると考え、色々なモデル構想を作っているところ。国土交通省をはじめとする各省庁においても、地方都市と大都市とがそれぞれの役割を果たせるように今夏以降、プロジェクト推進にあたり地域の特色にあったまちづくりを念頭において頂き、進めて頂くようお願いを申し上げたい。
- ・この計画とは特に関係ないが、防災や医療の関係等のことも書いてあるので申し上げ

るが、今、新型インフルエンザが近畿を中心に発生している。今回の発生事案を受け、関西地域においても秋から冬以降、来年も含め広域的な連携の推進ができるよう、一項を設けて頂きたい。

(大阪市長 (代理：柏木孝))

- ・ 先ほどの北陸新幹線の話だが、大阪市も全く同じなのでお願いしたい。
- ・ 1点、広域的なプランについてこうしてお示し頂いたが、日本全体からみて優先順位が高い、関西からみて高いという優先順位はあると思うが、現実その優先順位と一体誰がどう負担するのかということが合っていない。日本全体でみると優先順位は高いが、負担でいうとごく一部地域に限られている等、現行の負担ルールとプロジェクト優先順位が必ずしも一緒にはなっていないので、現行の負担ルールにとらわれない新しい負担ルールも柔軟に考えて頂き、現実の具体化に向けて検討頂きたい。

(大阪府知事 橋下徹)

- ・ ずっとフラストレーションが溜まっているのが、関西がどんどん貧状態になっているのを目の当たりにして、なす術が無くもがいている様な状況で国や国土交通省の皆様は、はっきりと関西が日本の中でどう位置付けられているのかを、国レベルで明確に位置付けて頂きたい。
- ・ ここには関西の特色が書かれているが、日本の中で本当にツインエンジンの1つなのか、それともやはり東京がエンジン1つで後はその他地方という形でいくのか。
- ・ 大阪、関西の立場からみると関東ばかりで、羽田の拡張や成田と羽田間の高速鉄道を結ぶなど、挙句の果てには外郭環状道路が9342の枠からはみ出していた所を猪瀬さんのゴリ押しで入り、どんどん関東ばかりに資源が行っているのではないかというひがみ根性になってしまう。
- ・ 明確に関西が日本の中でどういう位置づけなのかということを大きく、まさに国家戦略として国土交通省の皆さんに位置付けて頂くと、関西空港もその他ミッシングリンクも、鉄道の問題も色々な面で1つの方向が出てくるという思いがある。

(滋賀県知事 嘉田由紀子)

- ・ 橋下知事がおっしゃったが、正に日本全体をどのようにしてバランスをとり隅々まで元気に回復していくのかという事が大事だ。
- ・ 本日出されているこの計画を具体化していく際に、誰がどういう権限でどういう予算で行っていくのか。今まで自治体は、特に都道府県は直轄負担金でもほとんど中身は分らず、橋下知事がおっしゃった、ぼったくりバーの請求書のような形で、私が知事になってから何故これを払わねばならないのかと言うと、「法律で決まっています」と言われ、「地元が要望している事業ですから知事、ここには手をつけしないで下さい」

と言われてきている。

- ・ 事業の進め方だが、そもそも近畿地方整備局だけで一兆円を超える予算があると思うが農政局等、近畿に国はどれだけの予算を入れ、そしてそれに対し自治体の予算がどう絡んでいるという、ある意味で予算の使い方またその細部の効率性、成果の問題も含め踏み込んだ議論が必要だ。本日は問題提起に留める。
- ・ 一方で作文を出して頂き、この後工程表をどうするのかというところでは、自ずとそれぞれ自治体、特に政令指定都市、都道府県は様々な負担がある訳で、その事について次の踏み込んだ第一歩が必要だ。
- ・ すぐにではなく大きな課題なのでざっくばらんに話をし、本当にこの財政難の中で次の時代にこれ以上借金をしてはいけないという財政規律を保ちながら、必要な公共事業に適切な予算配分をしていくということをぜひ国と地方、都道府県、市町村が力を合わせて議論する場が必要という問題提起をさせて頂いた。

(協議会会長 (秋山喜久))

- ・ ありがとうございます。各省局長から何か意見はないか。
- ・ 近畿経済産業局長から何か意見はないか。
- ・ ここまでで事務局でお答えになることは何かあるか。

(国土計画局長 川本正一郎)

- ・ まずいくつかご指摘があったが具体化の問題、これは非常に重要であると橋下知事はじめ他の知事からもご指摘頂いた。
- ・ この協議会自身は、プレ協議会から含めて数年行っているが、計画ができた後そのための推進ということで具体的にどうしていくのか検討する機関として、これからは使っていきたい。
- ・ そこで優先順位の話もあったが、具体的にどうしていくのかという知恵を出していく。実際にそれぞれの現場で困っていること、改良した方が良いという話を受け止めながら、それは国にきちんと伝えてもらい対応していくという方法をとっていきたい。
- ・ 関西の地盤沈下の話は大変頭の痛い話で、非常に答え辛いのは昨日まで四国、九州、東北と協議会をやってきたが、各地では大都市圏対地方という意見になり、大変恐縮だが大都市圏の中に近畿も入っている。大都市ばかり投資が行き四国や九州にはお金がこないという指摘を知事さん方から頂いた。
- ・ 従って大変お答えしにくいですが、こちら側に並んでおる国から来た者は技監を含め圧倒的に関西出身者が多い。私自身も含め正直申しまして役人も関西出身者が多く、関西を何とかしないと日本全体が非常にこれから大変だと思っているところがある。
- ・ その意味でこれまでともすると国は国、地方は地方とそれぞれ別々の方向を向いて仕事をしているということがなかった訳ではないと思うので、そこを埋めることをこれ

からもやっていかねばならないと、抽象的な表現であって恐縮だが、思っている。

- ・最後に新幹線の話だが、これは北陸ブロックでも福井県知事をはじめ多くの知事からご議論を頂戴している。問題点はこの計画がおおむね 10 年間を見越した計画であるということで、関西圏のインフラグランドデザインを拝見し、大変良くできており良くまとめて頂いたと思うが、10 年という期間をある程度国としてみた際に、どこまで書けるかということでご理解頂きたい。
- ・とりわけ整備新幹線については平成 21 年末までに一定の結論を出すという政府与党の合意等もあり、表現ぶり等また色々ご意見を頂きたいと思うが、出来る限り言われたことは書いたつもりだということだけ本日はここで申し上げておく。

(和歌山県知事 仁坂吉伸)

- ・今ここで橋下知事にこっそり内緒で言っていたのだが、橋下知事がおっしゃったことについては四国や九州もあるという話だが、それでは困るということをも 2、3 回前のこの場で橋下知事が登場する前に強烈に主張させて頂き、実は 12 ページに「多様な価値が集積する日本のもう一つの中心圏域」で我々はただの地方ではない、双極のうちの一つであるという誇りを失ってはいけないということを書きちゃんと書いて頂きたいと要望し、書いて頂いているということを書きちゃんと書いて頂きたい。
- ・指摘する人は逆だが、一応申し上げておく。

(徳島県知事 (代理：武市修一))

- ・この広域地方計画の中で、特に広域物流ネットワークプロジェクトだが、実は広域物流も含め先ほどの文化や色々な人の流れも含め、本州四国連絡道路の効果というものは非常に大きい。先般の 3 月 20 日から高速道路の上限 1000 円という施策が始まっており、実は 5 月 2 日に徳島の鳴門でナンバープレート調査を行ったところ、沖縄県以外の車が全て鳴門の方に来ており、この効果は非常に大きなもので物流、観光全てを含め本当に重要な施策であると思う。
- ・ただこの措置は、暫定の 2 年間だけだ。このインフラグランドデザインにも書かせて頂いているが、何としても恒久対策を是非この機会にお願いしたいと思うので、ご配慮頂きたい。

(鳥取県知事 (代理：小林敬典))

- ・平井知事が本日県議会本会議で欠席しておりますが、代理として 2 点主張してくるよということなので、鳥取県からお願いしたい。
- ・まず山陰ジオパーク構想等を盛り込んで頂きありがたい。2 点のお願いとは、先ほど大阪府橋下知事からもご紹介頂いたが、この近畿ブロック知事会でまとめた広域インフラグランドデザインの中では、実は鳥取県の境港が入っている。境港では今月末に韓国、ロシアとの定期航路が就航の予定だ。そういった面で首都圏に対抗する近畿圏、

関西圏として一つの大きなアジアへの窓口として、是非舞鶴港、敦賀港に加え境港というのも是非加えて頂ければ非常にありがたいというのが 1 点だ。

- ・ 次に広域医療プロジェクトの中に、現在検討中であるが、鳥取、兵庫、京都の 3 府県により広域のドクターヘリ構想があるので、是非資料 3 の「10.広域医療プロジェクト」にこの構想も盛り込んで頂きたい。

(京都府知事 (代理：井上元))

- ・ 先程から意見が出ているが、やはりこれから計画が策定され、「PDCA」の段階で最も重要なのは「Do (実施)」だと思っている。
- ・ 今回の資料 2 の案で大きく変わったところということで第 5 部が追加され「計画の効率的推進」という項目が追加されているが、ここでいうモニタリングだけでなく、実際実施する段階でどのようにできるのかというところが非常に重要だと思っている。この 11 の主要プロジェクトの中で、何れも子細なプロジェクトが入っているので、こういったものがきちんと実際に実施できるようにする必要がある。今後この組織をそういう方向に持っていくという話もあったが、ぜひそれぞれのプロジェクトの主体をはっきりして具体的に実施できるようにして頂きたい。
- ・ 今例えば第 4 部第 10 節の広域医療の話があったが、広域医療の関係では今回関西広域連合を作り広域医療を行っていこうという動きもしており、それを確実に動かせ、なおかつ今申し上げたような北近畿の 3 府県を含めたドクターヘリを広域的に動かせるような仕掛けをぜひこれからお願いしたいと思っている。

(兵庫県知事 (代理：畑正夫))

- ・ 思い起こすと長い議論をしてきたと感慨深いですが、先ほど京都府さんもおっしゃったように、今や実践、実施の段階に入ってきたと我々も考えている。
- ・ その中で、関西主体の一つである広域連合の取り組みの検討が進んでいる。他府県間で議論が必要だろうと思うが、例えばフォローアップ推進主体の中に広域連合の仕組みをうまく組み込むことも必要だ。
- ・ また先ほども人の動きをどううまく作っていくかという議論もあったが、考えてみると、関西の北部は東京との航空路線を考えると意外と過疎的な地域となっている。魅力もあり資源もあるのに過疎的な状況ができていますので、そこをどう解消すべきかを考える必要がある。直行便を羽田との間で飛ばす空港資源もあるので、それらをどう利用していくかとも考えていく必要がある。
- ・ また道路の料金体系の話もあった。料金体系は暫定的ではあるが、休日上限 1000 円という形で取り組みをされ、人の移動が非常に活発になってきた。関西には様々な道路管理主体があり、地方の道路公社も含め料金体系が非常に複雑になっている中で、いかに効率的に整理していくかという議論が必要である。

- ・ またインフラブランドデザインに関しては、我々も非常に自信を持っている。ただ、ミッシングリンク一つとってもどこを具体的にどうするのか、既に決まったところだけをきちんと書くだけではなく、将来に渡っての期待、希望が持てるような具体的記述という点については、少し工夫が必要だ。

(三重県知事 (代理：松本利治))

- ・ 近畿圏の広域地方計画において、三重県はどちらかというと隣接県という位置づけの中で、計画策定には色々と意見交換をする場を頂き感謝する。
- ・ 三重県に関する事柄は実は明日、中部圏の協議会が開かれるが、中部圏の場合は、愛知、岐阜、三重、他に長野、静岡という圏域で中部圏の広域地方計画を作っている。関西圏と中部圏とでは圏域の構造が違うこともあるが、中部圏の計画では一部だが北陸圏域との連携や中部圏と関西圏との連携、あるいは長野、静岡が入っている関係で、首都圏との連携という部分も記述されている。
- ・ 具体的には、中部圏、近畿圏との連携でいえば、福井、滋賀、岐阜、三重の4県で色々協働して取り組む事柄、いわゆる京滋奈三ということで京都、滋賀、奈良、三重で色々取り組む事柄、あるいは紀伊半島ということで和歌山や三重でやっている事柄も、中部圏の広域地方計画の一定の位置付けを持っている。
- ・ 先程来の話で関西を大きく見る視点、大関西で考えるということからすれば、隣接圏域とのことも少し考えて頂ければということで、参考までに中部圏の広域地方計画の位置づけをご報告させて頂いた。

(京都市長 (代理：星川茂一))

- ・ 私どももこの協議会で文化、景観、環境を中心にご意見を申し上げてきた。全体として非常に良い形でまとめて頂き、改めて幹事会、事務局の皆様には感謝を申し上げる。
- ・ 1点だけ申し上げたいことがある。それは先ほど嘉田知事、それから関西経済連合会の奥田専務理事も申されたが、やはりこれまでの全総との違いが環境の問題を中心に取り上げ、全体として取り組んでいこうということが、今回の計画の大きな特徴の一つではないかと思っている。
- ・ CO2の削減が非常に大きな焦点であり環境問題の中心なので、この地域の取組む目標値を共有すべきではないかと前回も申し上げたが、それについては難しかったようだ。
- ・ 23ページの「広域的な取組を、その内容に応じた目標を共有しつつ、産学官民一体となって展開する」と非常に工夫された記述になっているが、少なくともやはり、この項は削減目標がないととりあえず書いたという感じになる。これは京都議定書目標達成計画に位置付けられている削減目標となっているが、現に2020年までにCO2排出量を15%削減ということが出ており、少なくとも時点修正はされると思うが、数字が全体として入らないとしっかりとした計画という感じにならないのでご検討頂きた

い。

(神戸市長 (代理：石井陽一))

- ・ 長きに渡りこの広域計画をまとめて頂いたが、神戸市医療産業都市構想、デザイン都市・神戸の取り組みの話をさせて頂く中で取り上げて頂きある意味では素晴らしい計画だと思う。
- ・ また我々も今現に 2025 年の目指すべき姿ということで、目標年次とする市の次期基本計画の策定を進めており、近畿圏の中での神戸のあり方について考えているところである。この広域計画に沿う形で良い計画を作っていきたいと思っている。
- ・ ただ具体的に申し上げますと、先ほどのインフラグランドデザインにまとめて頂いているような個々の事業について、いかに具体化していくかはこれからの大きな課題である。これらを一つ一つ具体化するに当たっては財政の問題等がある。事業手法については十二分に協議をさせて頂きながら、優先順位をとる中で実現させて頂きたい。

(堺市長 (代理：指吸明彦))

- ・ 長きに渡りある程度の見通しのもった計画ができたことは非常に嬉しい限りである。
- ・ 先ほど、川本計画局長がおっしゃったが、事業の具体化をどうしていくかという際に、担保する財源、あるいは担保する財政計画といったものが大きく課題、問題になると思う。
- ・ 今、地方の財政関係の仕組みが変わろうとしており、この計画を具体的に担保していくために、地方が努力する部分もあるかと思うので、またその都度ご相談したいと思うが、10 年計画あるいは社会資本重点整備計画の 5 箇年でいくといった見通しの中で、財政制度の方がどうついていけるかという不安がある。
- ・ 堺としてはこの計画そのものに対し、これから見通しをもって進めていくという部分については非常に嬉しい限りであり、お手元に「堺市 環境モデル都市行動計画」があるが、環境モデル都市になりこの広域地方計画あるいは社会資本の重点整備方針ができたことにより、このモデル都市の行動計画も生きてくる。色々な見通しの中で、これから堺市の目標も明確になるということで、頑張っていきたい。

(大阪商工会議所会頭 (代理：豊岡賢二))

- ・ 我々も都心インフラの整備について要望を出していることがあるが、個別の名前は別にして、それ以外に本日お話が出てきた限られた財源の中で優先順位を付けることと、もう 1 点、社会資本整備方針について、スピード感を持って行って頂きたい。
- ・ これは広域地方計画の方も 10 年後の姿を描いているが、実際にインフラが整備されるのが 30 年、40 年、中には 50 年もかかると、描いた姿とミスマッチすることがあるので、そのスパンを考えるとということと、実際決定し事業化計画されたものはスピ

ード感を持ってやって頂きたいので、それを盛り込んで頂けるとありがたい。

- 大阪のことで恐縮だが、スピード感ということになると例えば阪神高速の充実による渋滞緩和ということで、信濃橋渡り線が都市計画決定され、今年度事業化着手と新聞報道されていたが、今現在まだ事業着手されるという話は全然聞いていない。これも実際に、大和川線が開通する平成 26 年ぐらいに同時に開通するということを考えると、今年度中に着手しないと間に合わないが、これも財源問題が絡み着手が遅れているようなので、こういうのも早くできる体制を是非とも考えて頂きたい。スピード化をお願いします。

(大阪府知事 橋下徹)

- これだけこの広域インフラグランドデザインの話を、各知事また政令市の市長が引き合いに出して下さったということは、それだけ思いのこもっているものなので、繰り返しになるが是非これだけはよろしく願います。

(事務局)

- 今後の進め方についてのご意見ありがとうございました。検討させて頂く。

(協議会会長 (秋山喜久))

- 皆さんの意見を集約させて頂く。
- 一つは、1つの地域1つの県、あるいは関西だけではなく、全体を考えてこれからはものを考えていこうではないかということではないかと思う。
- オバマさんが就任演説で、「他人の発展に貢献することは、自らの発展につながるんだという信念を持て」と言われていたが、関西地域としても1地域、1府県に囚われず、あるいは関西という概念だけではなく、他の地域と連携をとりながら発展を図っていくということが大変重要である。
- 関西を日本の中でもっと位置付けろという話があったが、これは国土審議会でも常に問題になっていることで、一極集中排除のため多極分散という考え方を出すと、関西地域ではもちろん賛成だが、他の地域がまだ東京レベルまでいってないので多極分散はダメだということでなかなか承認を頂けない。しかしながら、関西として独自性が発展していくように頑張っていくことが必要である。
- 皆でやろうという中では、例えば、淀川左岸線延伸部の負担の問題や、将来問題になるとすれば新幹線の地元負担といった問題についても、1府県、1市が負担するのではなく、皆で負担していくような方式を考えていくことが大変重要になってくる。
- 地球環境問題については、目標値を作れという話があったが、国の方が近々目標を出すと思うので、そういったものを受け、地域別かセクター別かは別として、地域としても目標値を作っていくという作業がいずれは重要になる。

- ・ 環境問題については、各地方公共団体、産業界、各々が大いに努力していくことが大事だが、最近の水問題は世界的に重要になってきているが、こういった問題を発展途上国に輸出する場合には、産業界単体の技術だけではなかなか受け入れられてもらえない。上水道、下水処理、それから下水処理に当たっての逆浸透膜といった、いろいろな技術を組合せていくことが必要であると言われている。関西地域は、環境先進国として、作業的には非常に発達した良いものを持っている。例えば逆浸透膜でも 70% のシェアを持っている企業もあるが、単体ではなかなか世界的な環境問題に対応しきれないとなると、地方公共団体がやっている上下水道、下水処理と企業が持っている作業技術を組み合わせて発展途上国の環境問題に対処していくという、違った形の官民協力ということも含め、関西が環境先進地域として、これから発達していく必要がある。そういった意味で、関西は環境先進地域として、色々な取組を行い、水問題についても、滋賀県知事が言われた淀川問題についても十分配慮していくことが重要である。
- ・ 計画の進め方については、近畿ブロック知事会などよく連携をとるということである。そういった点は十分配慮していきたいし、また広域連合ができた場合には、広域連合の方が場合によってはこの事務局をするという形も考えられる。その辺はこれから協議していきたい。
- ・ 市町村意見も聞けといった話で、市町村のヒアリングは終わっているが、再度いらっしゃるとなると大変だと思うので、河合さんの方で各市町村からご意見があれば、できれば書類で事務局へ提出して頂ければ反映できるものは反映したい。
- ・ 具体名を出すなという話があったが、これは非常に難しいと思う。国土審議会でも具体例を書かないでおくという人がいるし、書くと抜けている部分はどうかという話になり、やや哲学的な論争になってくる。例示することによって、ある程度の方向性が出てくる。ただ、書いてないからダメだと言うことにはならないということで、この辺はこの計画策定のやり方としてこれから考えていきたいと思う。具体例を抜いてしまうと非常に抽象論になってしまいあまり迫力がなくなる。されど具体名を入れると、抜けている所をどうするのかという問題になってくるので、その点は難しい。
- ・ スピード感を持ってやるということは確かにそうである。描いた絵を絵に描いた餅にしないで、実践していくことが非常に重要である。そのためには財政をどうするか、あるいは地方と中央との負担をどうするかというような財政問題、これは地方事情をどうするかという問題と絡み合ってくるが、財政問題は非常に大きな問題なので、これは別途違う場所で議論しながら、進めていくことが必要である。
- ・ 非常に貴重な意見を頂いたので、この意見をもとに、またこれからパブリックコメントを行うので、パブリックコメントをした上で、広域計画については協議会の会長に一任頂いて原案を作らせて頂き、主務大臣に提出したいと思う。ただ、大きな変更がある場合には、皆様にお諮りする。重点整備方針は、地方整備局が事務局をやって各

省庁で決めるものなので、今日の意見を十分反映した形で重点方針を踏まえて頂きたい。

(国土交通大臣（代理：技監 谷口博昭）)

- ・ 貴重なご意見ありがとうございました。また、意欲的な近畿ブロック知事会合意「広域インフラグランドデザイン」も提出頂いた。金子大臣も喜んでいるのではないかな。帰ってから私からも伝えさせて顶きたい。
- ・ 少し計画の中身を超えた意見も頂いたかと思うが、そういう意味では、変わり目になっているのではないかな。第5全総から国土形成計画になったということだ。今回初めてブロックごとの広域地方計画を策定させて頂くということで、パートナーシップでやっていくということだと思う。
- ・ PIも含めて市町村の意見も貰ってはどうかという意見を頂いたので、まだ終わった訳ではないが、限られた時間で計画を策定していく。今回完全には消化できなかった部分については、次回以降完成していきたい。
- ・ 直轄負担金の話は強くは出なかったが、財源の話、事業方式の話などについても定かでない部分も残っている。地方財政が厳しいのはその通りだと思うが、国も同じだ。少し現在の経済状況は特異な点にあると思うが、国、地方がパートナーシップの精神でこれを何とか乗り越えて、10年後には意図したようになったなと、あの時やはり秋山会長の下に橋下知事、嘉田知事、仁坂知事が仰ったようになったということになれば良いと思う。
- ・ 特に関西については私も2年おり、本日はマスコミの方も多いが、テレビでは扱ってもらえるが活字ではなかなか取り上げてもらえない。箱根の峠を越えると、あるいは関が原あたりで2オクターブほど下がった形での活字の扱いとなる。
- ・ 本日はお忙しい中、長時間お付き合い頂き心から感謝している。
- ・ 10年後の姿について、近畿ブロックの知事さん方の関心が非常に高いということは、それだけ遅れているということの裏返しでもある。そういった知事が評価されるようなマスコミの扱い方、特にテレビではなく活字の扱いということになればと思う。
- ・ 関西に愛着を持った人が本日は揃っているので、心をひとつにして頑張っていきたい。
- ・ 第二京阪道路や京奈和自動車道に国の財政が厳しく、少し地方財政が特化しているということかと思うが、第二京阪道路も順調にいけば来春には見通しがつく。大きな転換期になってくると思っている。先ほど申し上げた制約条件もはっきりしないが、有効に捉えて、このこともあわせてよろしくお願ひしたいと思っている。

(協議会会長（秋山喜久）)

- ・ 負担問題をはじめると朝になってしまう。これで終わらせて頂く。
- ・ 長期的なビジョンを描けという問題は宿題として預からせて頂きたい。
- ・ 以上を持って本日の議事を終わらせて頂く。